

<空の安全・安心を！ 整理解雇四要件を守れ！>

京都のつばさ

街頭宣伝用ニュース

第4号

2011.10.3

日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議・発行

京都市中京区壬生仙念町 30-2 ラボール京都 5F 京都総評気付 11075-801-2308



## JAL 不当解雇撤回裁判にご支援を！ なぜ 稲盛和夫会長 (京セツ創業者) 要請か



「私たちは昨年大晦日に日本航空に解雇されたパイロットと客室乗務員 148 名です。不当な解雇は撤回せよ！と裁判で闘っています。ご支援よろしくお願ひします。」

We are 148 crew members, pilots and flight attendants of Japan Airlines, who were dismissed on New Year's Eve last year.

We brought this case to court in order to reverse this unfair dismissal.

(We were dismissed due to age discrimination and sick-leave record in the past..)

Your kind understanding and support would be greatly appreciated. Thank you.

<公正判決を求める署名へのご協力よろしく！>

**大量首切り** 日本航空は2010年12月31日、運航乗務員81名、客室乗務員84名の合計165名に及ぶ大量解雇を実施しました。

**日本航空の経営破綻の原因** 問題は、歪んだ航空行政や放漫経営にあり、当該労組は長い間こうした問題を改善するよう、国や日本航空に対して再三再四指摘してきました。



### 労働組合敵視

安全運航とサービス向上の為に職場の先頭に立って、会社への積極的提言や職場の問題解決に尽くしてきた組合で頑張ってきた人たちを狙い撃ちにしたのは、労働組合を弱体化しようとするものです。急激な人員削減と多くのベテランを排除したことにより、現場では運航トラブルが多発し、今年2月と3月には、国土交通省の立ち入り調査が実施されました。

### 稲盛哲学

「利益の為なら法をも守らない」体質こそ、520名の犠牲者を出した26年前の御巣鷹山事故で問われ、国民に改善を約束したことです。しかしその体質は、会社が破綻した現在も改善されることなく脈々と受け継がれているのです。そればかりか稲盛会長自ら「利益なくして安全なし」と過去の事故の教訓を無視して公然と発言しているのです。

### 史上最高の儲け

そもそも、整理解雇の必要性が全くなかったことは、人員削減目標を233名も超える人が希望退職に応じた事、整理解雇当時の営業利益が1586億円と目標を大幅に上回り、更には2010年度3月期決算も1884億円と史上最高の利益を上げている事、稲盛会長自ら記者クラブで整理解雇の必要はなかったと認めた発言をしたこと等から明らかになっています。

### 第二の御巣鷹山事故を防げ

日本航空が、二度と利用者や働く人を苦しめることがないように、何よりも安全運航を最優先して、真に国民に求められる航空会社に生まれ変わる事は、国民利用者誰もが願っていることです。安全運航を支えるのは現場の人です。働く人を大切にすると地道な経営こそが安全運航を確保できます。そのためにも、必要のなかった整理解雇を直ちに撤回することは、真の再生のための第一歩と言えます。

### 首切りの自由を許さず

最高裁判例でもある整理解雇の4要件(解雇回避努力、経営的不可避性、メンバー恣意性の無い事、労組・当事者との事前協議を尽くすこと)を確固として守ること、そして安全第一の日本航空の再建を果たし国民の足を守るために必ず勝利を引き出し、原職復帰を勝ち取る必要があります。労働者の権利を守るまともな労働組合を一掃しようとする稲盛会長の意図は許せません。この裁判闘争に力強いご支援を下さい。公正裁判を求める署名に皆様のご協力を心よりお願ひします。



**9.30 に稲盛和夫会長が裁判で証人台に立ちました(東京地裁)。詳細は次回に。**